

令和5年度第2回幡多地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和6年1月29日（月）10:00～12:00

場所：四万十市立武道館

出席：委員27名中、23名が出席（代理出席5名含む）

- 議事：（1）第5期高知県産業振興計画の全体像（案）等について
（2）第5期高知県産業振興計画における幡多地域アクションプラン（案）について
（3）産業成長戦略について
 観光振興の取り組みについて
（4）高知県元気な未来創造戦略の全体像（案）について
（5）その他

議事（1）～（5）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

- （1）第5期高知県産業振興計画の全体像（案）等について
意見交換等、特になし。

- （2）第5期高知県産業振興計画における幡多地域アクションプラン（案）について
（No.29 黒潮町の地域資源を活用した観光の推進）

（森田委員）

スポーツツーリズムの推進について、現在、県外スポーツ団体の高知空港からの貸切バス利用に関して、観光コンベンション協会から最大4万円の補助（補助率1/2）が出ている。ただ、物価高騰により、以前は約10万円だったバス借上げ経費が1.3倍くらいに高騰している。高知空港から高知市内までの補助は4万円でもいいが、幡多までとなればそれ以上の金額となるため、空港から各地域への距離を勘案した助成率や上限の引き上げの検討をお願いしたい。

また、スポーツ合宿については、黒潮町には助成制度があるが、幡多地域の他の市町村では助成がない。高知市は、観光コンベンション協会と高知市の補助金で有利な合宿を実施している。四万十市やその周辺地域でも支援策があると、スポーツツーリズムの誘客増が見込まれるため、ぜひご検討いただきたい。

（地域観光課 太田課長補佐）

燃料高騰等でバス代が高くなっていることは理解しており、ご意見は観光コンベンション協会にもお伝えさせていただく。

- （3）産業成長戦略について

観光振興の取り組みについて

（山脇委員）

オススメどっぷり高知旅コンテストについて、募集している素材は既存商品なのか。複数事

業者を組み合わせた構想中の新規商品などは推薦できないのか。

(観光政策課 長尾チーフ)

今回いただいた質問も含めて各団体からお問い合わせいただいている質問については、各市町村観光協会に文書にてお答えしたいと考えている。

既存商品でなくても、今後、ほぼ確実に商品化できるものであれば問題ないが、コンテストに選ばれたものをHP等で公開するとなったときに商品ができていないとなると都合が悪い。

また、コンテストの狙いは、複数商品の組み合わせというより、例えば、四万十川のSUP体験のような単体商品にガイドを付けることにより、四万十川の歴史や周辺の人々の暮らし、沈下橋の成り立ちなど四万十川を通した生活をより深く知っていただく等といったどっぷりとハマる旅の過ごし方を募集するもの。

(乾委員)

商店街で店舗を経営しており地道に頑張っているところだが、手をつなぐ大事さをしみじみと感じている。自分たちしか知らない魅力のあるスポットを探って観光協会にお伝えしていきたい。

(細川委員)

第5期産業振興計画の戦略体系の中に、関西圏との経済連携の強化が起爆剤とあるが、幡多広域の補助金を使って県外へ外商に行く際、各市町村2団体までとのことで、一緒に動こうとする事業者が複数いる場合は足りない。もう少し枠を増やして欲しい。

(山下地域産業振興監)

補助制度について、役場等へ内容確認の上、個別に回答させていただく。

(4) 高知県元気な未来創造戦略の全体像(案)について

(佐田委員)

東京都は初任給が高く、住居手当も高い。幡多地域の各企業では、賃上げの努力をしている最中だが、都会との差は非常に厳しい状況にあると思う。

民間、行政ともに何か考え方を変えていく仕組みを取り入れていかないと、その差は縮まっていけないと感じている。

(山下委員)

技能実習生は3年間で帰国するか関東周辺に転職し、地方には定着しない。水産業界では、超一級の加工施設で働く人が増えてきており、衛生管理がしっかりした食品工場にしていくための事業に支援をしていただきたい。

(増田氏(立田委員代理))

人口減少の実状や高知空港から遠方であるという幡多の地理的条件にあった産業を持ち込み、女性と高齢者の住みやすい町づくりが地域の活性化につながっていくと思う。

(計画推進課 西岡課長補佐)

都会との賃金格差については、第5期計画の中で全国との格差縮小に向け、事業者の生産性向上などへの取り組み支援を通じて賃上げができる環境を後押ししていく。

また、農林水の各産業分野においても、所得向上につながるような取り組みを支援していく。

(5) その他

(浦尻委員)

宿毛湾周辺に加工場は増えてきているが、働き手がいらない。給料が安いと良い人材が確保できない。産業振興計画で、売上げを増やして賃金をアップさせ、若者たちが都会から戻れる仕組みづくりをしていくことで、人口減少にも歯止めがかかると思う。

今回の補助金については、小規模な加工場へ案内したいと思う。

(大木委員)

内水面の水産物の加工に関して、安定的・継続的に魚がとれないことや豊漁では魚価が低迷してしまうことから、加工と結びつけて何とかしていくことが今後の課題である。

(濱口氏 (沖委員代理))

1次産業である四万十川のノリは、ここ3年間収穫ゼロという状況。陸上養殖を研究されている大学の先生にご指導いただいたが、組合員は岐路に立っている。自然相手に今後も収穫が上がるのかどうかが不安を抱えているのが現状であり、お力添えをいただきたい。

(程岡委員)

ノリのできない原因は、まだ全然つかめていないのか。

(濱口氏 (沖委員代理))

塩分濃度や温度、水流などの話は出ているが、確たる原因は不明。大学の先生や各団体委員が協力し、不漁の原因を解消していくためのプロジェクトを検討している。

(程岡委員)

川の水がきれいになり過ぎた、ということはないか。

(濱口氏 (沖委員代理))

昔から言うように水清ければ魚棲まずという話があるが、原因がこうだからという定義的なものはない。素人では原因がつかめないなので、産学官で究明していきたい。

(程岡委員)

県の水産試験場に、どのようにすればいいのかアドバイスをいただければと思う。

人口減少の問題について、土佐清水市の人口減少率が高く、昨年度、土佐清水市では20数人しか子どもが生まれておらず、非常に危機感を持っている。中高生の短期留学や、外国人の技能実習生ではなく、ワンランク上の語学勉強を希望する方をターゲットにした取り組みなどを検討中であり、市単独で無理なら幡多管内の6市町村が連携しながら取り組んでいくことも必要であると考えているので、ぜひご協力をお願いしたい。(以上)